

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32632

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2023

課題番号：15K02062

研究課題名(和文) ロシアにおける教育コミュニティの形成と宗教 宗教文化教育をとりまく環境

研究課題名(英文) Religion and the Making of Educational Communities in Russia: The Environment Surrounding Religious and Cultural Education

研究代表者

井上 まどか (INOUE, Madoka)

清泉女子大学・文学部・准教授

研究者番号：70468619

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の当初の目的は、2012年に公立小学校に導入された宗教文化教育、および宗教団体の信徒有志による教育活動の双方を複眼的に分析することによって、ソ連解体後のロシア社会における「宗教復興」の動態を明らかにすることにあった。

研究の結果、宗教文化教育は90年代から2000年代にかけて軍隊など国防分野での兵士教育と深く結びつき、その際、愛国心教育と不可分であったこと、上のについては、ロシア正教会が主導していること、他方、公教育における宗教文化教育の設計においては国家の世俗性原則やロシア正教会以外の伝統宗教(イスラーム、仏教、ユダヤ教)が重視されたことなどが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国家とロシア正教会との密接な関係や、ロシア正教会の愛国心教育への傾斜は、ソ連解体後の趨勢として表面的に言及されることが少なかった。本研究では、ロシア正教会と軍隊など国防分野との連携、ロシア正教会の国家観・戦争観、ソ連時代の政教関係、ロシア正教会以外のいわゆる「伝統宗教」(イスラーム、仏教、ユダヤ教)の政府との関係、非伝統宗教の動向など、複眼的にアプローチすることによって、国家とロシア正教会の関係性の内実を明らかにし、また、愛国心教育と伝統宗教との関係を明らかにしたところに学術的意義がある。ロシアのこの事例は、日本を含め後発近代国家との比較を可能にするという社会的意義をもつ。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to clarify the dynamics of "religious revival" in Russian society after the dissolution of the Soviet Union through a multifaceted analysis of both religious and cultural education, which was introduced into public elementary schools in 2012, and educational activities by lay volunteers of religious organizations.

The results of the research revealed that (1) religious and cultural education was deeply connected with the education of soldiers in the field of national defense, including the military, from the 1990s to the 2000s, and was inseparable from patriotism education; (2) the Russian Orthodox Church took the lead in (1) above; and (3) on the other hand, in the design of religious and cultural education in public education, the principle of secularity of the state and traditional religions other than the Russian Orthodox Church (Islam, Buddhism, and Judaism) were emphasized.

研究分野：宗教学宗教史学

キーワード：宗教復興 宗教文化教育 宗教教育 愛国心教育 軍隊 ロシア正教会 伝統宗教 ソ連解体後ロシア

## 1. 研究開始当初の背景

ソ連解体後のロシアにおける政教関係や宗教をめぐる動向は、宗教が公共的役割を担って復興しつつあるという「宗教復興」「脱世俗化」「再聖化」という諸概念であらわされる議論(カサノヴァや P.Berger など)のうちに位置づけられる。ただ、ロシア正教会と国家の関係については、ロシア正教会が国教に準ずる立場にある、あるいはただ単にロシア正教会が優位であるというような表面的な指摘にとどまることが少なくなかった。本研究では、公教育への宗教文化教育の導入(2012年)に注目し、ロシアにおける国家の世俗性原則をめぐる議論や、ロシア正教会以外の伝統宗教(イスラーム、仏教、ユダヤ教)の動向を明らかにすることによって、ロシア正教会と国家の関係性や「宗教復興」の内実について明らかにすることができると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、2012年に公立小学校(4-5年生)に選択必修科目として導入された宗教文化教育とそれを取りまく諸環境を検討することによって、ロシアにおける「宗教復興」の内実を明らかにすることである。

宗教文化教育をめぐる議論はソ連解体前後にまでさかのぼることができるため、90年代から2000年代の宗教文化教育をめぐる動向を明らかにすること、宗教文化教育をめぐる動向が、ソ連時代とどのような連続性/不連続性を有するのかを考察すること、ロシア正教会以外の伝統宗教(イスラーム、仏教、ユダヤ教)やその他の宗教団体の宗教文化教育の取り組みがどのようなものであるかを解明すること、学校の正課としての宗教文化教育を取りまく環境について、学校の課外活動および信徒団体の活動や実践などを通して明らかにすること、などを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究は、宗教文化教育をめぐる言説分析と現地調査という2つの手法を往還して実施した。

研究期間中、新型コロナウイルスの流行、ロシアによるウクライナへの全面侵攻という外的事情があり、当初の計画とは異なるが、現地調査はモスクワ、サンクト・ペテルブルク、ウラジオストク、ウスリースク、ハバロフスクの5都市で実施した。

## 4. 研究成果

研究目的の 90年代から2000年代の宗教文化教育をめぐる動向については、この時期、軍隊など国防分野での兵士教育とロシア正教会の宗教文化教育が深く結びついていることが明らかになった。その際、兵士の愛国心を涵養するという目的のもと、ロシア正教会と政府・自治体が連携を組んでいるということも明らかになった。国防分野と宗教伝統とが教育を媒介して結びつくという点では、連邦レベルでは、ロシア正教会が先鞭をつけていた。また、国家の世俗性原則に則り、宗派教育ではなく、「宗教文化」教育であるという戦略を用いていることも特徴的である。これらの点については、90年代から2000年代の国防分野との連携のあり方や方法、愛国心とロシア正教会の教説や諸資源(聖人崇敬など)との関係性についての考察として、論文「軍隊とロシア正教会」にまとめた。

研究目的の 宗教文化教育をめぐる動向がソ連時代とどのような連続性/不連続性を有するのかについては、まず、ソ連時代の教育について検討を行うとともに(論文「ロシアにおける宗教教育の導入と今後の課題」(木之下健一との共著))、ソ連時代の「宗教からの脱出」プロセスを「除去=精算による脱出」と「転移=置換による脱出」の二面から把握し、そのプロセスを追うとともに、人々のさまざまな宗教実践を取りあげることで、ソ連解体後との不連続性/連続性をともに明らかにしようとした(論文「ソ連時代のライシテと「戦術」としての宗教実践」)。

研究目的の ロシア正教会以外の伝統宗教(イスラーム、仏教、ユダヤ教)やその他の宗教団体の宗教文化教育の取り組みについては、宗教文化教育をめぐる伝統宗教団体の連邦レベルでの動向をまず考察した(論文「国家の世俗性のゆくえ—ロシアの宗教教育を事例として」)。また述べたように、宗教文化教育自体は兵士の愛国心教育をめぐる軍隊など国防分野とロシア正教会とが相互に協力するところからはじまっており、それは2000年代から2010年代にかけて従軍チャプレン(従軍聖職者)の導入をめぐる議論と切り離せないものとなっていたことをふまえ、従軍チャプレンの導入をめぐる諸宗教伝統の見解や議論について分析・考察を行った(学会発表「従軍チャプレンの制度化をめぐる：2000年代以降のロシア連邦を中心に」)。

研究目的の 学校の正課としての宗教文化教育を取りまく環境について、学校の課外活動および信徒団体の活動や実践などを通して明らかにするという課題については、青少年団体の取り組みや日曜学校、宗教文化の知識を問う児童対象の全国的「オリンピック」の取り組みなどについて検討を行った(論文「ロシアの愛国心教育と宗教文化教育：2000年代前半の沿海地方に

おける取り組みを中心に」、これはウラジオストクとモスクワでの事例が中心となっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 井上まどか	4. 巻 71
2. 論文標題 「ロシアの愛国心教育と宗教文化教育：2000年代前半の沿海地方における取り組みを中心に」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『清泉女子大学紀要』	6. 最初と最後の頁 17-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井上まどか	4. 巻 2023
2. 論文標題 軍隊とロシア正教会	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代宗教	6. 最初と最後の頁 195-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 井上まどか	4. 巻 62
2. 論文標題 ロシア連邦における政治と宗教のいま	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユーラシア研究	6. 最初と最後の頁 26-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 井上まどか
2. 発表標題 「領邦教会制と独ソ戦下型体制のアマルガム？：体制転換後ロシアの政教関係」
3. 学会等名 「宗教と社会」学会第31回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上まどか
2. 発表標題 「ロシアにおける宗教文化教育と愛国心教育」
3. 学会等名 日本宗教学会第82回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上まどか
2. 発表標題 「従軍チャプレンの制度化をめぐって：2000年代以降のロシア連邦を中心に」
3. 学会等名 ロシア東欧学会2023年度研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上まどか
2. 発表標題 軍隊とロシア正教会
3. 学会等名 NIKORS/STREAM研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上まどか
2. 発表標題 ロシアの世俗倫理教育と無神論の動向
3. 学会等名 「西洋の世俗と宗教」研究会（C班）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上まどか
2. 発表標題 ロシアの「多宗派公認体制」からみる西欧の政教関係
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上まどか
2. 発表標題 古儀式派をめぐる研究動向
3. 学会等名 古儀式派研究会研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Madoka INOUE
2. 発表標題 'Believing without Belonging' and 'Vicarious Religion' in Post-Soviet Russia
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 井上まどか (伊達聖伸編著、木村護郎クリストフ編著、ほか)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 『世俗の新展開と「人間」の変貌』	

1. 著者名 井上まどか・木之下健一（共著）（ロシア・ソビエト教育研究会編著、編著者名：嶺井明子、岩崎正吾、澤野由紀子、タスタンベコワ、クアニシ）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 432
3. 書名 現代ロシアの教育改革：伝統と革新の 光 を求めて	

1. 著者名 井上まどか（伊達聖伸編著、ほか）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 306
3. 書名 ヨーロッパの世俗と宗教 近世から現代まで	

1. 著者名 井上まどか（編集委員）（編集代表：沼野 充義、望月 哲男、池田 嘉郎）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 886
3. 書名 ロシア文化事典	

1. 著者名 Madoka INOUE (et al.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 上智大学ヨーロッパ研究所叢書	5. 総ページ数 128
3. 書名 上智大学ヨーロッパ研究所叢書12 ヨーロッパの世俗と宗教	

1. 著者名 井上まどか（藤原聖子編、ほか）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 276
3. 書名 世俗化後のグローバル宗教事情 < 世界編1 >	

1. 著者名 井上まどか（江川純一編著、久保田浩編著、ほか）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 リトン	5. 総ページ数 414
3. 書名 「呪術」の呪縛【下巻】	

1. 著者名 井上まどか（井上順孝責任編集、宗教情報リサーチセンター編、ほか）	4. 発行年 2015年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 350
3. 書名 < オウム真理教 > を検証する そのウチとソトの境界線	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------



ボスニア・ヘルツェゴビナ	サラエボ大学			
--------------	--------	--	--	--